

3-2 各池の生物及びその他の指標（物理的指標・生物指標）と指標例

自然再生事業では、十分に具体的で検証可能な目標を立てることが必要です。荒川太郎右衛門地区自然再生事業の方向性として、「湿地を保全・再生すること」が挙げられていることから、下記に「湿地の保全・再生」を評価する指標（物理的指標・生物指標の候補）の中から、各池を代表する指標例と目標を提案します。また、目標値については、平成16年度の実施計画策定時に検討を行いたいと思います。

物理的指標・生物指標の候補	池	指標		目標	選定理由	
物理的指標の候補 ・開放水面の面積 ・池の水位 ・水質 ・底質（土壌） ・地下水位 ・植生密度（日照） 生物指標の候補 ホンドカヤネズミ ホンドタヌキ ホンドキツネ ホンドイタチ オオタカ ツミ ノスリ サシバ タゲリ チョウゲンボウ コミミズク パン カワセミ ダイサギ コサギ メダカ ヒメモノアラガイ エサキアメンボ ハネナシアメンボ ミドリシジミ コムラサキ イチョウウキゴケ タコノアシ ナガボノシロワレモコウ ノウルシ エキサイゼリ ミゾコウジュ フジバカマ ヒシ ミクリ	上池	物理的指標	開放水面の面積	拡大	空中写真より昭和20年代に比べ面積が約1/5になっているため。 昭和20年5.5ha 平成12年1ha（参考）	
		生物指標	エキサイゼリ等の現在確認できる希少種		当該種等の保全	エキサイゼリは上池でのみ確認されており、エコトーンの拡大、本川との接続による冠水頻度の増加により、増加が期待できるため。
	中池	物理的指標	開放水面の面積	拡大	空中写真より昭和20年代に比べ40%以上減少している。 昭和20年8.9ha 平成12年5ha(参考)	
		生物指標	カワセミ等の現在確認できる希少種		当該種等の保全	カワセミのえさとなる魚類の生息できる現状水質や開放水面の拡大によりその生息環境が改善される種であるため。
		生物指標	ハネナシアメンボ等の現在確認できる希少種		当該種等の保全	ハネナシアメンボは中池でのみ確認されており、開放水面の増加を指標する種であるため。
	下池	物理的指標	開放水面の面積	拡大	上池、中池と同様に昭和20年代と比べ減少している。	
生物指標		ミドリシジミ等の現在確認できる希少種		当該種等の保全。	ミドリシジミは県の指定種であり、下池でのみ確認されている。更新・攪乱があるハンノキ林の指標となるため。	